

平成 26 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(岸地区)

開催日時	平成 26 年 10 月 21 日 (火) 午後 7 時から午後 9 時	天気 曇り
場所	高齢者いきいきセンター	
町民参加者	男 22 人 女 9 人 (40 代以下 0 人、50 代 0 人、60 代以上 31 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、参事兼都市整備課長、総務防災課長、学校教育課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：川村小学校入口横断歩道の安全対策》

○川村小学校入口の横断歩道の誘導は、朝の登校時間は地区のボランティアの方々で見守りをしているため、安全が確保されているが、帰りは学年によりバラバラな時間で下校するため、なかなか見守りができない。越地方面から小学校へ右折しようとする車は対向車を注意しながら待っているため、横断歩道を渡る子供への注意を怠る危険性がある。子供たちの安全確保ためにも歩道橋の設置をお願いしたい。

《テーマ：空家（再活用不適）と付属する庭木対策》

○空き家の放置された庭木は倒木の危険性を感じる。連絡先が確保できる間は、隣近所で連絡しあって、庭木等の手入れも可能だが、年月が経過するとそれができずに放置されてしまっている。防犯上も大変危険。連絡が取れない家の庭木の手入をする方法はないか

《テーマ：災害時に機能する自主防災組織のあり方》

○災害時に機能する自主防災組織が、きちんと組織されていることを前提に町の防災計画や災害時要援護者支援制度が作られている。しかし、現状ではほとんど組織が機能していない。自治会だけでは手に負えないため、町の方で組織をしっかりとするためのサポート等をお願いしたい。自主防災組織は自治会長が作ることになっているが、副会長も含めてほとんどが 2 年で任期が終わってしまう。自主防災組織は、消火や救護、情報といったスキルを持っている人がいないと成り立たない。これを自治会で何とかしろと言われても、自治会だけではなんともできない。

○町主催のリーダー研修に参加したが、その時の資料を読んだだけでは自主防災隊とは何なのかなかなか理解できない。今後町にお願いすれば、日曜等であっても訓練時に講師をお願いできるのか。

○台風 18、19 号のときに、手分けをして全組長に情報を流したが、非常に戸惑っていた。自治会として情報伝達経路を考える必要があると考えている。

○日向地区の避難所となる日向活性化施設は町の管理になっているため自治会では鍵を持っていないが、緊急時はどうなるのか。

○自主防災の訓練の中で、要援護者について資料で説明したが、支援者になっている本人の認識が薄い。支援者の講習会などを町で行う必要がある。

○山北町では特に集中豪雨やゲリラ豪雨があったときの山の近くの家や高台にある家は危険の可能性が高い。町は避難勧告を出す基準を考えているのか。

《テーマ：町政全般》

○川村小学校の特に西側の傾斜地の草刈りについて心配している人がいる。8月末と9月初めにボランティアを集めてある程度草刈りができた。

○富士山等の噴火で火山灰が町にも降り注いでくると思うが、何か対策は考えているのか。新聞では、山北町に多く火山灰が降り注ぐとなっているので町でも考えた方がいいのではないか。

○座談会の内容について、広報やホームページで公表されていて、その内容が意見や対話がありましたとあるが、町長からの回答が載っていない。回答を載せられない理由があるのか。